

第一話：ピポエクスプレスとの出会い

ある日、悠ピポは自分の部屋でMac（らしきもの）をいじっていた。
机の上には配線・基板・電池・はんだごてがずらり。



「うーん…あと一個、部品が足りひん…」
ディスプレイに表示されたのは、謎の通販サイト「ピポエクスプレス」。

検索バーに「  」と入力する悠ピポ。
（温度センサー、ディスプレイ、小型バッテリー）

「これやああああ！しかも激安！！」

すぐさまカートに放り込み、「  」で注文完了。
出荷元は「ピポ人民共和国・工業ゾーンB地区」って書いてある。

数日後、ピポドームのポストに小さな包みが届く。

「来たああああああ！！」
箱には見慣れないシールと、ちょっと不安なロゴ「PipoExpress  」。

第二話：謎パーツと格闘開始！

さっそく開封した悠ピポ。
中身はプチプチに包まれたパーツたち。そして1枚の紙。

「使用方法書いてへん…ピポ語のみやんけ…」

そこに書かれていた文字：

「      」
（訳：「電源を入れて、信号線をつなげば、表示されるよ！」）

ピポリンがのぞきこんで一言。
「それ、3.3V限定や。5Vやと爆発する」

「えっっっっ！？！？」

慌てて回路図を書き直し、抵抗値もピポミに相談して再確認。

「    」（回路はこんな感じでいけるかな…）

ピポポが後ろで紅茶を飲みながらひとこと。

「成功するといいね～。でもそれ、よく爆発するらしいよ～」
悠ピポは気にせず、はんだごてを握った。

第三話：ついに通電！動くのか！？

組み立て開始から3時間後。
ブレッドボードに部品が並び、ケーブルが繋がり、ディスプレイが刺さる。

「さあ…通電や…」
スイッチを入れると、カチッ。

…シーン……。

「……………あれ？」

ディスプレイは真っ黒のまま。

ピポリンがコンセントを見る。
「あ、スイッチ逆になってる」


「ギャアアアアアアアアアア！！！！！！」

スイッチを切り替えると…

「    

（バッテリーON、通電、ディスプレイに光！）

「映ったああああああああ！！」

そこに表示されたのは、
「 23.4℃」

成功！！

ピポミが拍手。「すごいわ、悠ピポ！完全に一人でやったのね」
悠ピポは照れながらガッツポーズ。

第四話：教えてみんなに！技術は広めるもの

次の日。

悠ピポはリビングにピポたちを集めていた。

ミドピポ、ミドシン、ピポリン、ピポポ、みんなが興味津々。

「これ…作ったん？」

「すげええ…表示されてる…！」

「これ、ピポ語でも出せる？」

悠ピポはうなずいた。

「    」（ソースコードを書き換えたら、ピポ語表示にもできるよ）

ピポリンがメモを取りながら、真剣な顔で言った。

「この技術、教育用に応用できるぞ」

ピポミがにっこりと微笑む。

「誰かのために使える発明、最高じゃない」

悠ピポは思った。

「趣味で始めた電子工作でも、誰かの役に立つんやな」

エピローグ

その日の夜、ベッドに寝転びながら悠ピポはMacを開いた。

次に作るのは、湿度計付きの音声読み上げデバイスだ。

再びピポエクスプレスのページを開き、検索窓に打ち込む。

「   」（次はもっとすごい作るぞ）

未来のピポたちの暮らしを変える電子工作が、今、始まろうとしていた――